

結果概要

(1) 開会挨拶

カシオペア青年会議所から、カシオペア地域の活性化に向け、広域連携をコンセプトとして立ち上がった本フォーラムは、今回から様々な施策実現に向けた本格的な検討を開始していくことになるので、活発な意見交換をお願いしたいとの挨拶が行われた。

(2) 各テーマに対する具体的提言及び意見交換（主なもの）

①地域資源のブランド化に向けた新事業活動の展望

《提言等》

・漆の生産に関し、平成 27 年の文化庁通知により、国宝や重要文化財の修復に国産漆の使用が義務付けられ、年間 2,000 kg の生産が必要となる。二戸市では国内の約 7 割を占めているものの年間 800 kg にとどまっており、絶対量が少ない状況。漆の生育には 15 年かかるため、近隣市町村と連携を図りながら、生産量の拡大を進めたい。（二戸市）

・浄法寺漆器は、生漆から製品まで一貫して生産し、国内外からも高品質の漆器として注目されているものの、それを支える漆掻き職人は儲からないこともあって、現在 20 人しかいない。浄法寺漆産業を振興していくためにも、担い手の確保や生活の安定に向け、産学官民金が連携した取組を進めていきたい。（二戸市）

・ブランド化の第一歩は「核となる（売れる）商品づくり」で、①誰をターゲットにするか、②価値を伝える商品ストーリーづくり、③他地域では真似できない非代替性という発想が必要である。それぞれの地域資源の融合・コラボによる核となる商品の開発や、その情報発信には各機関の連携が必要である。（岩手銀行）

・基幹産業である農業の振興に向け、新たな担い手を育成する研修機関「一戸夢ファーム」の運営に力を入れている。また、農産物は、横浜市のアンテナショップでも販売しているが、情報発信に重点を置いており、他の自治体もアピールの場として活用いただいて差支えない。（一戸町）

・毎年、信用金庫協会主催の「ビジネスマッチ東北（商談会）」が開催されているので、首都圏をターゲットにする前に、まず東北・仙台での反響をみて優れたブランド化に近づけていくというやり方も一手ではないか。（盛岡信用金庫）

・財務事務所では、若手職員のアイデアを募集してみたところ、「『カシオペア連邦』」の名称を

付した特産物の統一ブランド化」、「ふるさと納税返礼品として4市町村の特産品のセット品の導入」、「伝統工芸の担い手を確保する専門学校の創設」、「漆掻き職人を高齢者で補う日本版CCRの導入」、「ソウルフードとしての雑穀甘酒の開発」などがあった。(盛岡財務事務所)

《意見交換》

- ・様々な提言の中には、過去にうまくいかなかった事例もある。例えば、岩手県立二戸高等技術専門校にはかつて伝統工芸科があったが、就職する場がなく、結局、学生が集まらなくなり廃止となった。ボトルネックを踏まえて取組んでいくことが重要である。
- ・新潟県では、雪を利用した天然の冷蔵庫「雪室」を使い、鮮度を保ちながら熟成する手法で様々な食品をブランド化している事例がある。地元では当たり前でも、地域外では新鮮であったりするので、その視点でアイデアを出していくことも必要ではないか。

②観光施設等の整備・運営における官民連携ニーズ

《提言等》

- ・二戸市では、九戸城跡、金田一温泉、天台寺の3周辺地区のまちづくりを進め、“稼げる”地域を作っていきたい。この取組みを推進するため、関係機関と地方創生の連携協定を締結したいと考えている。この取組みがカシオペア地域に拡大していくことも期待している。(二戸市)
- ・週刊少年ジャンプ掲載の「ハイキュー!!」の作者が軽米町出身であり、漫画に軽米町内の風景が描写されているため、ファンが聖地巡礼している。これは、商工会青年部によるSNSでの情報発信から始まっており、各種イベントにつながっている。(軽米町商工会)
- ・聖地巡礼で軽米町を訪れた「ハイキュー!!」ファンから、移動に時間を要しアクセス面で不便、宿泊施設が少ないとの声がある。交通の利便性向上の検討とともに、宿泊施設の多い二戸市との連携も図っていきたい。(軽米町)
- ・財務事務所の若手職員のアイデアとして、「公的施設の相互利用に向けたカシオペア地域内の広域連携検討会の立ち上げ」、「自治体が企画するカシオペア周遊婚活ツアーの実施」、「カシオペア地域共通商品券の発行」、「特産物を味わえるカシオペアロードの整備」などがあった。(盛岡財務事務所)

《意見交換》

- ・公的施設の相互利用について、自治体がそれぞれ野球場やサッカー場を整備するというのは無理な時代であり、将来的には、共同運営という形になると思う。
- ・転勤族の立場で見ると、カシオペア地域の地域資源が県外に知られていないのではないかと。観光客を呼び込むためにも、地元の若者の発想を前面に出していくことが重要ではないか。
- ・カシオペア地域の中で、各種イベントの開催日の重複をなくすなど、全てのイベントに参加できる環境を整えることも重要ではないか。

・域外の観光客に広くこの地域を見てもらい、楽しんでもらえるという意味では、カシオペア共通商品券の導入などが有意義ではないか。

(3) 次回開催に向けた意見交換

カシオペア青年会議所から、アイディアの具現化に向けて協議を重ねていくための仕組みとして、ワーキンググループ（以下、WG）の設置について提案があり、参加機関から承認された。

《提案内容》

- ・第3回フォーラムの開催に向け、2つのワーキンググループ（「特産物WG」、「観光資源WG」）を設置し、それぞれのWGで、今回、提言のあったアイディアの具現化の検討を行う。
- ・WGでの検討結果を第3回フォーラムで協議。
- ・WGは、各参加機関の青年層で構成し、月1回程度を目安に開催。

(4) その他

財務省大臣官房地方課 橋本地方連携推進官から、以下のとおり感想が述べられた。

《感想》

「カシオペア地域活性化フォーラム」については、地方公共団体等が広域に連携して議論・意見交換をする取組みであり、全国の財務局でもあまり例が無い取組みである。

各参加機関には強み弱みがあると思うので、それらをどうつなげていくのが課題となるが、事業を展開する上で、民間金融機関との連携が重要となってくる。さらに、民間金融機関では難しい場面では政府系金融機関のノウハウを活用することも必要となってくる。是非、参加している機関が連携して課題解決に向けて努力していただきたい。

今後、WGが設置され、各参加機関が様々な議論・意見交換を行っていくとのことだが、この取組みは確実に地域活性化につながると考えており、5年後、10年後、「カシオペア」と言ったらこの地域のことを示すような意気込みで取り組んでいただきたい。

(5) 閉会挨拶

盛岡財務事務所から、今回のフォーラムでは2つのテーマで様々な提言がなされ、今後はWGにおいて事業の具現化に向けた検討を行うことになったが、一つでも多く実行に移せる事業が生まれるよう引き続き全力でサポートさせていただくとの挨拶が行われた。



(フォーラムの様様)



(カシオペア青年会議所 石輪理事長)



(盛岡財務事務所 利所長)



(財務省 橋本地方連携推進官)